グッド・プラクティス
GP Good Practice 広がる良好実践 15

外国人労働者のための参加型アプローチによる職場環境改善

吉川 悦子[1)]，仲尾 豊樹[2)]，毛利 一平[3)]

はじめに

わが国の外国人労働者は，経済のグローバル化や労働人口構造の変化に伴い，増加傾向にあります。厚生労働省による外国人雇用状況の届け出状況調査では，2011年10月末現在，外国人労働者数は68万6,246人で，国籍別外国人労働者割合は，中国が最も多く外国人労働者全体の43.3％，次いでブラジル17.0%，フィリピン10.2%と続きます。外国人労働者が働く職場の特徴として，製造業が約３割，事業所規模では30人未満の事業所が最も多いことも指摘されています。

外国人労働者が安全で健康的な労働生活を送るための対策を確立することは，国際社会において重要です。しかし，日本で生活する外国人労働者はさまざまな課題を抱えています。たとえば，生活領域では，言葉や文化の違いによるコミュニケーション，子供たちの教育の保障，出入国管理体制や外国人住民票制度等が課題としてあげられており，労働領域では，低賃金・雇用継続の不安定さ，研修・技能実習制度，労災補償制度が十分に適用されない等が指摘されています。

このため外国人労働者は，労働安全衛生上，脆弱な労働者集団と考えられていて，外国人労働者が働く職場での，安心，安全で健康的な職場をつくる取り組みが注目されています。本報告では，外国人労働者が多く働く職場での，参加型職場環境改善プログラムの導入とその成果について報告します。

ガラスリサイクル工場での参加型職場環境改善活動の経緯

私たちが参加型職場環境改善プログラムを導入・展開したのは，都内にあるガラスびん・板ガラスのリサイクル工場です。この工場では，労働者40名中25名が外国人労働者であり，まさに外国人労働者が生産活動の中心的役割を担っている職場です。

ガラスリサイクル工場は，屋外作業やガラス屑を取り扱う作業工程が多い（図１），いわゆる３K職場といえますが，事業者はもともと外国人労働者を意図的に多く雇用しようと思ったのではなく，国籍を問わず採用した結果，最終的に多国籍（私たちがプログラムを開始した当初は８ヵ国）の外国人労働者が残ったとのことでした。この職場で働く外国人労働者に，自分の職場の良いところは？と聞いたところ，「外国人が多く働いているところが良い点である」と答えた方が複数いたことが

よしかわ・えつこ
なかお・とよき
もうり・いっぺい
1) 東京有明医療大学看護学部・講師
2) NPO法人東京労働安全衛生センター
3) 財団法人労働科学研究所・研究部長

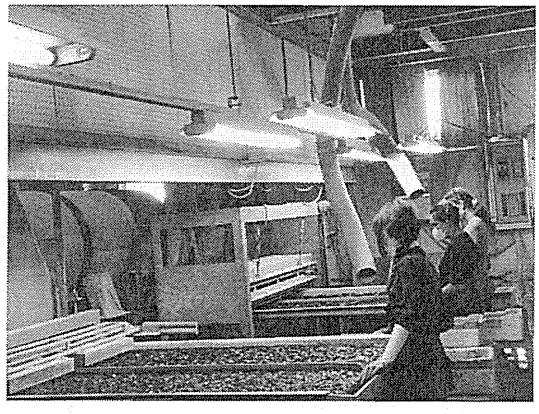

図１　ガラス屑の選別作業

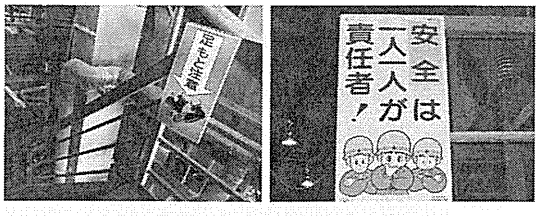

図２　工場内の注意喚起や安全啓発の掲示

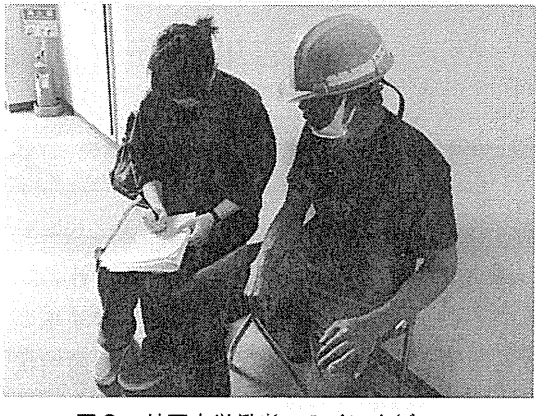

図３　外国人労働者へのインタビュー

印象に残っています。

さて，この工場では，事業拡大に伴う人員増の後，労働災害や事故が多発したことが職場の問題としてとらえられていました。工場内を見てみると，注意喚起の看板や安全啓発のポスターなど，さまざまな場所に掲示がされており（図２），労働者の安全意識を高める工夫が感じられました。

参加型職場環境改善プログラムの導入にあたり，私たちは，まず職場を数回訪問し，現場の安全衛生担当者や外国人労働者の方にインタビューを行いました（図３）。そして，彼ら自身が感じている職場の実態や課題などのニーズを把握するとともに，現場ですでに取り組まれている良好実践事例（グッドプラクティス）を収集しました。これらのインタビュー結果や職場訪問による良好事例収集に基づき，外国人労働者のための参加型職場環境改善プログラムを立案しました（図４）。

本プログラムは，小規模事業場や家内工業で広く取り入れられている，参加型対策志向トレーニング(Participatory Action-Oriented Training, PAOT）の方法論に基づいています。プログラム開発にあたっては，現場の安全衛生担当者と参加型職場環境改善プログラムの実施経験のある外部スタッフとで，プログラムの目

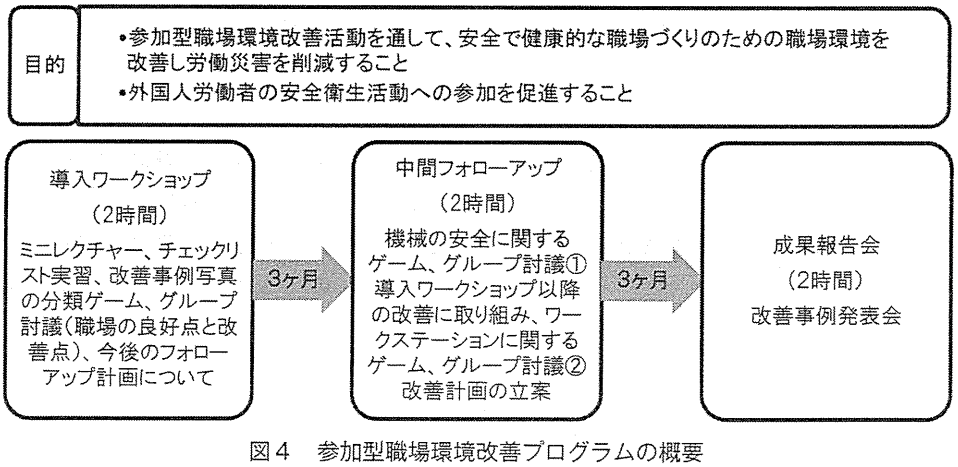

図４　参加型職場環境改善プログラムの概要

作業改善アクションチェックリスト

このチェックリストの使い方

1. それぞれの項目を、よく読みます。その項目の提案が当てはまるかどうかを見ます。それができていたり、いらないと思う場合には「この改善を提案しますか」の下の「いいえ」にチェックをつけます。その提案が必要と思う場合は「はい」にチェックをします。メモにはJWガラスのよいところや、改善提案の内容をできるだけくわしく書いてください。
2. ぜんぶの項目をチェックしたら、「はい」にチェックをした項目をもう一度みます。そのうち、特に大切な提案と思うものをいくつか選んで「優先」にチェックを付けます。
3. チェックリストにある項目以外でも、よい点、改善提案をみつけたら、書きとめてください。

A. ものの運び方と保管のしかた

1. 移動しやすい通路を確保し、はっきりとわかるようにします。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ　☐ はい　☐ 優先

メモ

2. 作業場に多段型の収納棚や収納ラックを設けます。

この改善を提案しますか？

☐ いいえ　☐ はい　☐ 優先

メモ

☐ いいえ　☐ はい　☐ 優先

メモ

図5　アクションチェックリストの例

標，内容，実施方法を検討し，トレーニングキット（アクションチェックリスト，ワークブック）を作成しました。トレーニングキットは，文化背景や言語の異なる多国籍の外国人労働者が安全衛生に関する共通理解を促すための重要なツールとなります。トレーニングキットは，視覚的にわかりやすい写真やイラストを多用し，文章は平易で簡単な日本語表現とし（図5），さらに日本語の他，英語，フランス語，ポルトガル語，ネパール語などそれぞれの外国人労働者の母国語に翻訳しました。職場環境改善を取り上げる領域についても，3つの領域「ものの運び方と保管の仕方」・「ワークステーションと機械の安全」・「心と体に気持ちの良い職場環境」とし，通常は30～50項目ほどで構成されるアクションチェックリストの項目数も12項目に厳選するなど，外国人労働者が短時間で効果的に安全衛生に関す

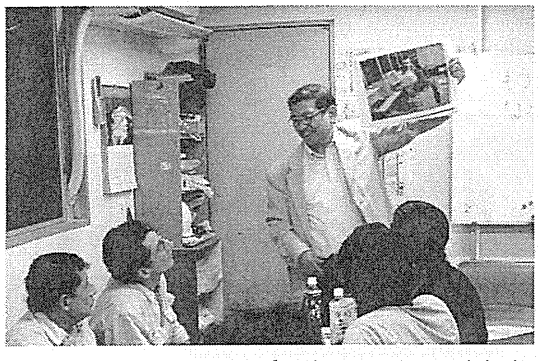

図6 導入ワークショップ：熱心に聞き入る参加者

図7 導入ワークショップ：参加者による良好事例の改善写真選び

る視点を理解しやすいように工夫しました。

参加型職場環境改善プログラムの導入と成果

2011年7月に，ガラスリサイクル工場での参加型職場環境改善活動の導入ワークショップが実施されました（図6，図7）。初回のワークショップには，25名の外国人労働者のうち，7ヵ国18名の外国人労働者（ペルー8名，ネパール5名，インドネシア，フィリピン，ナイジェリア，ホンジュラス，ギニア各1名）が参加しました。

参加者たちは，自分たちの働く職場の良好点や改善点をアクションチェックリストや良好事例写真を参考にしながらグループで検討し，改善計画を発表しました。その後，導入ワークショップに参加した外国人労働者たちにより12件の改善が実施され，改善の領域は，ものの保管と移動，機械安全，ワークステーション，物理的環境，福利厚生など多岐

表 中間フォローアップで出された主な改善事例

【整理整頓に関すること】
- ✓ 道具・機械の整理整頓，棚や道具箱の整理整頓
- ✓ 散らかっていると思ったところを整理整頓する

【機械の安全に関すること】
- ✓ 開口部へのカバー，巻き込まれ防止のガード
- ✓ フォークリフトの安全運転

【保護具の使用】
- ✓ 耳栓・手袋の使用
- ✓ ヘルメットの使用

【コミュニケーション促進】
- ✓ 人間関係がよくなった（前は他国籍のチームで言い争いがあったりした）
- ✓ 危険な場所を皆で確認し，共有した

図8 改善事例の例：作業用椅子の使用

図9 改善事例の例：道具の整理（ヘルメットをかけるフックの取り付け）

図10　参加型職場環境改善活動に参加した外国人労働者とスタッフ

に及んでいました（具体的な改善事例は表を参照）。

実際に取り組まれた改善事例は，作業用椅子の使用（図8），道具の整理整頓（図9），保護具使用，丁寧な清掃，作業者同士のコミュニケーション促進などで，低コストですぐに実行できる改善が多く目立ちました。また，これらの改善活動と同時に，屋外作業場での屋根の設置や作業工程の変更など，大規模な職場環境改善が会社全体の取り組みとして実施されました。これらの参加型職場環境改善活動の結果，プログラム導入前6ヵ月間の災害発生件数4件，延べ休業日数204日に対して，プログラム導入後 6ヵ月間の災害発生件数は0件で経過しています。

おわりに

今回のプログラムを通じて，文化背景や言語の異なる外国人労働者が多く在籍する小規模事業場において，参加型手法を用いた職場環境改善プログラムは，外国人労働者の安全衛生向上に有効な結果をもたらすことが確認されました。

また，労働災害リスクの低減だけでなく，外国人労働者一人一人の安全衛生に関する考え方の変化や安全で健康的な職場環境づくりのための職場風土形成にも寄与していることが示唆されました。

労働安全衛生上，脆弱な労働者集団ととらえられていた外国人労働者が9ヵ月という短期間の間に幅広い領域での改善を次々と実行し，職場の安全衛生に寄与したことは，参加型アプローチの持つ可能性を改めて認識する出来事になりました。

本プログラムは，2011年度厚生労働科学研究費補助金「非正規雇用の一典型としての外国人労働者における労災・職業病リスクの解明と参加型手法による予防対策の確立」（研究代表者：毛利一平）の一部として実施されました。